



宇市土第 69 号  
平成 19 年 4 月 27 日

国土交通省道路局長 様

宇土市長 田口 信夫



中期的な計画の策定にあたっての意見書の提出について (回答)

平成 19 年 4 月 2 日付, 国道企第 114 号にて依頼がありましたこのことについて, 別紙のとおり提出します。

## 中期的な計画の策定にあたっての意見書

道路特定財源の見直しの論議がなされた背景には、道路が十分整備されているにもかかわらず、道路整備にしか使用できないのは資源配分の観点から非効率ではないか、また無駄な投資が行われているのではないかな等の考えが一部にあったからだと認識している。

しかし、実際的には、地方における道路整備はまだ不十分である。鉄軌道等による公共交通網が整備されていない地域にあっては、道路は豊かな生活の実現と活力ある地域社会の形成に欠くことのできない社会基盤であり、根幹的な社会資本である。このため、住民の利便性向上、住民福祉の向上のためには、今後とも継続的に道路整備を行っていくことが必要である。

また道路の整備は、沿線の土地利用はもとより、地域経済に大きな波及効果を生み出し、地域間競争の勝敗を左右する大きな材料となるものである。

本市においても、これまで国道の慢性的な交通渋滞を解消するために、国道の拡幅はもとより、高規格道路を含む効果的な道路網の整備を関係市町村と共に強く要望してきたところである。

国土交通省における道路整備に係る中期計画策定においては、道路は住民生活及び地域経済に欠くことのできない社会資本であるということをご理解頂き、地元の意向を十分に汲み取った計画を策定されるよう希望するものである。ちなみに、本市が重点化を進める上で特に優先度が高いと判断している事業は次のとおりである。

また、事業を効率的に進めるに際しては、各事業または区間において具体的な終期を設定した上で、その実現に向けて取り組んでいくべきであると考えている。

なお、整備にあたっては、人にやさしく環境に配慮した道路となるよう、配慮をお願いしたい。

### 記

1. 地域高規格道路熊本天草幹線道路の早期完成
2. 地域高規格道路熊本環状道路の早期完成
3. 地域高規格道路有明沿岸道路の早期着工
4. 国道3号線松橋バイパス以南区間の4車線化の早期着工

平成19年4月27日

熊本県宇土市長 田口 信夫



## 《参考資料》

熊本県は九州のほぼ中央部に位置しており、この地理的条件を最大限に生かし、各県との交流・連携を深めることにより活力ある発展を遂げ、さらには九州全体の発展に資するためには、九州全体の交通網の整備は必要不可欠であります。

現在、熊本県においては、熊本都市圏と九州各県の主要都市との間を1日行動圏で結ぶ「150分構想」、そして熊本都市圏と県内主要都市とを半日行動圏で結び、都市と地方の円滑な交流を促進し、相互の持つ機能を楽しむことで地域の発展を目指す「90分構想」を重点的に取り組み、地域の骨格となる主要な道路整備計画が進められています。

しかしながら、昨年12月に「道路特定財源の見直しに関する具体策」が閣議決定されたことにより、今後の道路整備のための財源確保は相当厳しくなると思われまます。

従来、道路整備に必要な財源は、主に道路の恩恵を受ける自動車利用者が負担すべきであるとの理念に基づき、国税として揮発油税、石油ガス税、自動車重量税、地方税として軽油引取税、自動車取得税などの税目により課税され、全国の道路網を整備するために使われてきました。特に、ガソリン税の中の揮発油税や自動車重量税には、財源不足を補うために法律で定められた税率よりも高い「暫定税率」を適用し、揮発油税には本来の税率に対し2倍、自家用車の重量税は2.5倍の税金がかけられてきました。

受益者負担の原則により課税された税の用途を特定せず一般財源化しようという論議は、本来の税の趣旨を逸脱するのではないかと考えております。

さて、本市におきましては、総合計画後期基本計画をスタートさせ、まちづくりの新たなテーマを「定住と交流」と定め、輝かしい未来に向かってのまちづくり事業を展開しておりますが、そのためには幹線道路の整備が必要不可欠であり、特に国直轄施工の道路整備につきましては、県南の関係自治体で整備促進期成会を設立し、1日も早い事業への着手や整備区間への格上げに向けた、国への粘り強い要望活動を続けているところであります。

本市を含めた県南地域は、県北地域と比較し、企業進出も含め、すべての面で遅れをとっており、大きな地域格差となって現れています。この地域格差を生じさせた大きな要因が幹線道路の整備状況であると考えております。このため、県南地域の発展のためには、県南と県都熊本市とを結ぶ国道3号の松橋バイパス以南区間の4車線化や地域高規格道路熊本天草幹線道路の整備等の基幹道路の整備が早急に必要であり、これにより沿線自治体はもちろん、県南全体の競争力強化、そして地域経済活性化につながっていくと確信しております。

まだまだ地方は、鉄道などの公共交通機関の整備が不十分で自動車交通に頼らざるを得ないため、道路に対する住民の期待も大きなものがあります。道路というものは、豊かな生活の実現と活力ある地域社会の形成に欠くことのできない社会基盤であり、国民生活や活力ある地域社会の形成を支える根幹的な社会資本であります。

これから策定される中期的計画におきましては、道路利用者の視点に立った道路整備を基本とし、道路が本来担っている空間としての機能を生かしつつ、地域の歴史や文化、景観、自然条件等、環境に配慮した道路づくりを促進すべきであります。また道路構造物の延命化にも取り組んでいくべきであると考えております。

最後になりますが、平成18年3月に4車線化が完了しました国道3号川尻バイパスにおきましては、交通渋滞の解消やスピード化したことによるCO<sub>2</sub>排出量削減といった整備効果が目に見えて現れており、地元として大変満足し、感謝しているところであります。

これからも、本市や連担する自治体で要望活動を続けています道路整備促進事業におきましては、特段のご理解とご高配を賜りますようお願い申し上げます。